



受け口(反対咬合) を寝ている時に 治す (ムーシールド)



東京都で開業する柳澤宗光先生が、3、4歳の幼児の受け口（反対咬合）を治療するマウスピース型の矯正装置を考案しました。

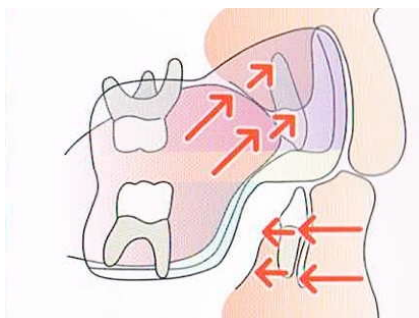
受け口は、上の歯を内側へ押す上唇の力が強く、それを支えるべき舌が上の歯に当たらないで、下の歯を外へ押ししてしまう“低位舌”という位置にあるため、上顎があまり成長しないで、下顎が前方へ出てしまうことによって起こるようです。

これまで幼児の受け口で歯科を受診しても、歯のはえかわりまで様子を見るのが一般的でした。



歯のはえかわりまで様子を見て、受け口が直るのは15%程度の患者さんで、85%の患者さんは受け口のままです。

ムーシールドを装着すると、舌は上唇が歯を支える位置へ上がりバランスを保たせます。そうする事により下顎の後退と、上顎の前方への成長促進が望め、受け口の治癒に結びつきます。



ムーシールドは、

1. 3歳から始めることができ、11歳頃までが適応
2. 寝ている時にムーシールドをはめるだけで、受け口が改善される
3. 通常の矯正治療に比べると治療期間が短い（通常1年）
4. ワイヤーを使わないので痛みがないなどの特徴があります。



かたどりも必要ないので、すぐに始めることができます。

受け口の気になるお子様がいましたら、ぜひスタッフまでご相談下さい。

ムーシールドホームページ
<http://www.muhsield.info>

柳澤先生（調布矯正歯科クリニック）のホームページ
<http://www.dr-yanagisawa.com>



(c)KF STUDIO